

<5月3日憲法記念日>

五月晴れ、1000名以上が集い、憲法を噛みしめた一日

＝参加者が主人公の憲法フェスティバル、みんなが祝う＝

各平和委員会の皆様のご奮闘で憲法フェスティバルは1000名以上が集い成功しました。最近にない充実し憲法記念日の集いとなり、また平和委員会の役割も果たせました。参加者及び参加出来なかった賛同者のみなさんに感謝申し上げます。

口を開けば、何かにつけて自衛隊の海外派兵。これが国際貢献だという内閣。日本政府は戦後、憲法9条を掲げての平和外交というものを一度も行ってこなかった。すべてアメリカ一辺倒の安保追随だった。他方、物が豊富に有り余っているのに生活が出来ない人々の増加。アメリカに見習って弱者切り捨ての金持ちのための政治。どこか狂っている。

今年の憲法記念日は憲法生かし基本にすえた「国民のための政治」をめざして憲法9条・25条をみんな考え・語り合おうと企画しました。幾つか、感想を記してみました。

1. 参加者が主人公・手作りの憲法フェスティバルにさらに発展させよう。

それぞれが得意な模擬店を出し、紙芝居をやったり、若者や労働者が思い思いを語り合うのは市民レベルの憲法記念日にふさわしい集いでした。特に午前中は戦争体験を聞くコーナー・9条の会の交流会・戦争パネル展は平和委員会が担当しましたが、多くの人たちに歓迎されたのは大きな成果でした。来年はさらに地域から出し物を多くしていきましょう。ともあれ参加者が喜びあえたのが最大の収穫だったと思います。

2. 定着しつつあるフェスティバル。さらに県民に憲法を語る広場を提供していこう。

室内での学習会も大切ですが、屋外での県民に開かれた「つどい」がやはり憲法のつどいには相応しいと思います。昨年に続いての水戸商店街中心の100枚近くのポスター貼りでは断られたのは3枚でした。又、今年は茨城新

聞・常陽新聞に意見広告も掲載しました。確実に県民の中に定着しつつあると実感しました。来年は各地域で10～15枚でもポスター貼りだしをしたいものです。

3. 何といても成功させたには共同の力です。

このような「つどい」は一つや二つの団体で出来るものではありません。多くの団体や個人の方々の力と知恵が必要です。また、共同行動にはその運営・実施にあたってそれにふさわしいあり方があるはずで、この点、茨城はまだ未熟です。共同行動は各団体の性格・目的・力量などの違いをお互いに尊重し認め合う事を前提にしなければなりません。その上でお互いにどのくらい力が出せるか信頼し合って運営していく。決して「押しつけ」はいけません。後は創意と工夫あるのみです。この事は県段階だけでなく地域から運動の輪をつくり広げていく事がさらに、と言うよりその前提となるべきと思われます。

(伊達)

<参加者の感想は次号に掲載します>



歓迎!!新入会員のみなさんです

ともに平和の声を大きく広めていきましょう

佐藤 大志さん (水戸市)

岩田 重夫さん (守谷市)

守屋 ミサさん (つくば市)

高野 衛さん (鉾田市)

岩間 政男さん (小美玉市)

植田 真理子さん (小美玉市)

各平和委員会・平和の会からの仲間づくりをおまちしています。

運動は運動を呼び起こし、仲間は仲間をつのり、
県大会に向けてともに頑張りましょう

2009年度茨城県平和委員会大会

と き：5月30日(土) 午前9時半受付開始。

10時開会。4時終了。

と ころ：茨城県総合福祉会館(50号バイパス、
サントル交差点)

*各平和委員会は大会代議員を選び参加してください
代議員数は、各理事に送付しました大会招集状
に記してあります。

大会代議員には代表理事・常任理事・事務局長
はなれません。理事・会計監査は可。

*ひとりでも多くの仲間を迎えて県大会を成功させ
ましょう。

平和かわら版

No.532
月3回 発行
2009.5.15

平和新聞茨城版

発行：茨城県平和委員会

〒310-0912 水戸市見川5-127-281

Tel/Fax 029-251-2806

E-mail ibahei@amber.plala.or.jp



「だからどうしたの？」 “この壮大な茶番劇”

笠西平和の会 田口 俊彦

Aさん

朝鮮民主主義人民共和国（以降、北朝鮮）は「6カ国協議からの離脱、核開発再開」の表明をしましたね。米国を訪問していた民主党の前原副代表に対してスタインバーグ米国務副長官は「驚くに値しない。想定内の対応だ」と述べました。北朝鮮のこの表明は、米国政府のみならず、日本政府の本音、さらに私たち「日本国憲法を守り、世界の平和を願う」人たちにとってさえも「想定内」だったのではないのでしょうか。でも、何だかおかしいですね。

なぜなら北朝鮮の日本に対する“脅威”は、200発といわれる準中距離ミサイル：ノドンで、すでに完成し配備済みだからです。（日本の自衛隊も在日米軍も彼らにとって重大な“脅威”になっているすが）

今回のロケットは領空でもない高度の東北地方の上空を通過し、太平洋上のはるか遠くをめざします。つまり、日本にとって全然“脅威”なんかではないのです。

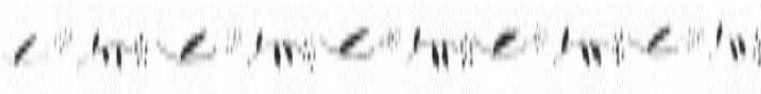
（せいぜいロケットの破片がおちてきたらどうしよう、という程度のものです）

「北朝鮮がロケットを発射した？だからどうしたの？」というのはきわめて正常で健全な感覚です。これに対して日本政府は、テレビを中心にあたかも日本が戦時に突入したかのように宣伝報道をし危機感を煽りました。イージス艦「こんごう」「ちようかい」を日本海に展開させ、地对空ミサイルPAC3を秋田・岩手両県と、首都圏に計9か所に配備しました。中央、地方の役所は管理職から末端まで、通常の業務を停止して、全く無意味な仕事に付き合わされました。つまりどうでもよいことに大騒ぎを演じ、世界が最も危惧している「核開発」さえ「想定内」と冷静に観ている、（政府は一応深刻な顔をして見せてはいますが）このちぐはぐさ何でしょう。

つまり日本のこれからを考えた時、北朝鮮のロケット発

射問題の本質は、全然別のところにあります。それは、政府が自ら演出した大騒ぎ＝“壮大な茶番劇”によって、その後何を導き出しているかによって完全に明らかです。これを契機に「敵基地先制攻撃」論や「核兵器保有の検討」の必要性を強調する議論、さらに集団的自衛権の行使まで（安倍元首相は25日、愛知県瀬戸市での講演で「集団的自衛権の行使を含めた（憲法）解釈の変更を、私たちのマニフェストに入れて選挙に臨むべきだ」と述べた）あからさまに語られるようになったことが、それを物語っています。

Aさんは「だからどうしたの？」“この壮大な茶番劇”が私たちの運動が発する言葉としてはでは、あまりにも挑発的で、しかも無責任な印象をあたえ、国民多数の共感を得られないだろう、といわれました。たしかにそのとおりです。ただ、「ロケットの発射の自制を求めてきた。遺憾である」では、そのあとで正論を縷々展開しても、何となく“この壮大な茶番劇”を真正面から批判するという点で、どうしても切れ味が今一になってしまふ、そんな印象を私は持ってしまうのですが…。



内原・友部平和の会主催

『里山・春のつどい』に参加して

八郷平和の会 柳岡修二

絶好の日和に恵まれ、新緑を満喫できました。(4/29)『平和のことを忘れるほど、平和なことはない』との伊達さんの締めくくりの言葉通り、愉しめました。

この二三日の朝の寒さは以上だと思いますが、この日も八郷では霜が降り、被害もあったのではないかと思います。

自己紹介のとき、参加者の顔ぶれを見て思わず「『内原・友部』の…」と言いそうな感じがしました。



老若男女総勢26名が、思い思いに散策やそれからの調理の下準備にかり、早い人待ちきれず、歩こうよりもアルコールに触手を伸ばしていました。

今の時期、山菜は実に種類も量も豊富で、食べられないものはあまりないようです。でも、宝くじに当たるのは嬉しいですが、毒には当たりたくないですね。その点は、川井さんという強い見方がいたので安心です。

昼下がりのひと時、女性たちを中心に歌声を響かせました。

私はオカリナを吹いていましたが、数といい元気さ加減といい、てんで圧倒され、刺身のつまほどにも行きませんでした。もっとも私は夫ですから、これでよかったのでしよう。

『八郷でもこんな催しができたらいいね。』と、妻が言っておりました。

準備をされました方々に、心から感謝いたします。

お詫びと訂正

前号寄稿頂いた「いま、私たちに必要なこと」の筆者『藤田 稜威雄』は『柏木 裕美』の誤りでした。お詫びして訂正いたします。